

文献 19

平嶋大輔, 谷口剛志. 野球投手の投球パフォーマンス・筋疲労に及ぼす円皮鍼の効果 プラセボを用いた比較試験. 東洋医学. 2010; 16(4): 47-50. 医中誌 web ID 2011082669

1. 目的

野球投手の投球パフォーマンス・競技直後・翌日に発生する疲労感に対する円皮鍼の効果の評価。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 クロスオーバー (RCT- cross over) ダブルブラインド

3. セッティング

記載なし。

4. 参加者

健康高校生投手 5 名

5. 介入

Arm1:円皮鍼(セイリン製 PYONEX(0.6mm))を投球側の肩甲骨上角、第 1-3 肋骨の高さの肩甲骨内側縁に貼付した状態で、打者 9 名に対して 100-120 球の投球を行った。

Arm2: 鍼先をカットしたプラセボを Arm1 と同部位に貼付し、同様の投球を行った。

Arm3: 無処置にて同様の投球を行った。

6. 主なアウトカム評価項目

打たれたヒット数(被ヒット数)、与四死球数、測定日の W-up 前、投球後、翌日の疲労度 (VAS)

7. 主な結果

- 1) 被ヒット数: 群間の変化は認められなかった。
- 2) 与四死球数: 群間の変化は認められなかった。
- 3) 疲労感: 投球翌日の VAS 値は、円皮鍼群で他の 2 群に比べて減少を認めた。

8. 結論

円皮鍼刺激によって投球翌日の疲労感が抑制された。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

投球パフォーマンスにおける円皮鍼の影響を検討した論文である。円皮鍼・シャム鍼を用いており、被験者施術者ともにマスクをかける手続きが踏まれており比較試験としてのデザインはよい。一方でサンプルサイズが 5 名と大変少なく、被ヒット数といった評価項目が適切かどうかは疑問である。また統計解析の手法や有意差が記述されていないため、本論文のアウトカムの妥当性には疑問が残る。また投稿された雑誌は鍼灸専門学校の学内誌であり、査読者によるレビューを経ていない可能性もある。本論文の結果は十分慎重に吟味しなければならない。学生研究のため、今後よりブラッシュアップされた研究成果を提示いただけることを期待する。

11. Abstractor and date

金子泰久 2016. 3. 15